

## 5 各戦略に関連する主な指標

中間評価に当たり、各戦略に関連する主な指標についてプランの検討・策定時（主に2011年のデータ）と最新のデータを比較する。

### 【国際人材戦略関連】

日本人の若者をグローバル人材として育成するため、世界共通語とも言われる英語力の向上を行っている中、英検、TOEICともに全国データではあるが、受験者数は増加している。（表1）

外国人高度人材の受入拡大と活用に向け、アジア諸国出身の技術系を中心とした留学生向けの奨学金制度の新設や留学生の就職を促進する事業を進めているが、外国人留学生について、2011年から2014年の間で全国では微増であったが、本県は約10%減少し、全国順位は1つ下がって5位となった。（表2）

県内の留学生を国籍別にみると、上位の中国が25.8%、韓国が9.9%それぞれ減少した一方、ベトナム、マレーシア、インドネシアなど東南アジア出身の留学生が増加している。（表3）

外国人留学生が国内企業等へ就職する人数は増加傾向にあり、本県についても、2011年から2014年の間に約50%増加している。（表4）

表1 全国の英検・TOEICの受験者数

単位：人

	2011	2012	2013	2014	増減率 (2011→2014)
英検	2,511,732	2,545,304	2,657,044	2,635,403	4.92%
TOEIC	2,493,700	2,524,100	2,585,700	2,629,000	5.43%
計	5,005,432	5,069,404	5,242,744	5,264,403	5.17%

※受験者数の調査期間は各年4月1日～3月31日

出典：（公財）日本英語検定協会 — 英検受験の状況

（一財）国際ビジネスコミュニケーション協会 — 2014年度TOEICテスト受験者数

表2 全国の外国人留学生数(5月1日時点)

単位：人

年次	2011		2012	2013	2014		増減率 (2011→2014)
留学生数	138,075		137,756	135,519	139,185		0.8%
(11、14年のみ) 上位5都府県	1	東京都	43,188	/	東京都	45,280	4.8%
	2	福岡県	10,635		大阪府	10,853	5.1%
	3	大阪府	10,325		福岡県	10,627	▲0.1%
	4	愛知県	6,706		京都府	7,470	19.6%
	5	京都府	6,246		愛知県	6,036	▲10.0%

出典：独立行政法人日本学生支援機構 — 平成26年度外国人留学生在籍状況調査結果

※高等教育機関在籍者数（日本語教育機関在籍者は含まない）

表3 県内の外国人留学生数(5月1日時点)

単位：人

年次	2011		2012	2013	2014		増減率 (2011→2014)
留学生数	5,966		5,826	5,544	5,154		▲13.6%
(11、14年のみ) 上位10カ国	1	中国	4,050	/	中国	3,006	▲25.8%
	2	韓国	406		韓国	366	▲9.9%
	3	ベトナム	182		ベトナム	205	12.6%
	4	台湾	159		マレーシア	146	11.5%
	5	マレーシア	131		米国	143	60.7%
	6	インドネシア	110		台湾	130	▲18.2%
	7	米国	89		インドネシア	126	14.6%

出典：愛知県留学生交流推進協議会 — 留学生在籍一覧（国・地域別）

※協議会所属73校の留学生数

表4 外国人留学生の日本企業等への就職者数

単位：人

	2011	2012	2013	2014	増減率 (2011→2014)
全国	8,586	10,969	11,647	12,958	50.9%
うち愛知県	450	667	622	665	47.8%
(参考)東京都	4,088	5,254	5,359	6,140	50.2%

出典：法務省 — 平成26年における留学生の日本企業等への就職状況について

### 【産業グローバル戦略関連】

海外進出企業の支援及び海外販路拡大の支援に向け、海外産業情報センター及び国際ビジネス支援センターの開設・運営等を行っている中、県内企業の海外進出はアジアを中心に着実に増加しており、2011年からの3年間で1割以上増加した。特にインドネシア、ベトナムなど東南アジアでの増加率が著しい。(表5)

県内貿易港からの輸出額は増加傾向にあり、2011年と2014年を比較すると30%以上増えている。特に米国では70%以上増加した。(表6)

プラン策定時は1ドル80円を切る著しい円高であったが、2015年の年間平均は1ドル121円台となっている。(図1)

表5 県内企業の海外進出数(拠点数)(12月末時点)

年次	2011		2012	2013	2014		増減率 (2011→2014)
総計	3,569		3,755	3,884	3,959		10.9%
(11、14年のみ) 上位8カ国	1	中国	1,098	/	中国	1,143	4.1%
	2	米国	470		米国	499	6.2%
	3	タイ	337		タイ	405	20.2%
	4	インドネシア	136		インドネシア	217	59.6%
	5	香港	105		ベトナム	145	39.4%
	6	ベトナム	104		インド	112	30.2%
	7	韓国	91		香港	100	▲4.8%
	8	インド	86		韓国	94	3.3%

出典：(公財) あいち産業振興機構 — 2014年における愛知県内企業の海外事業活動調査結果

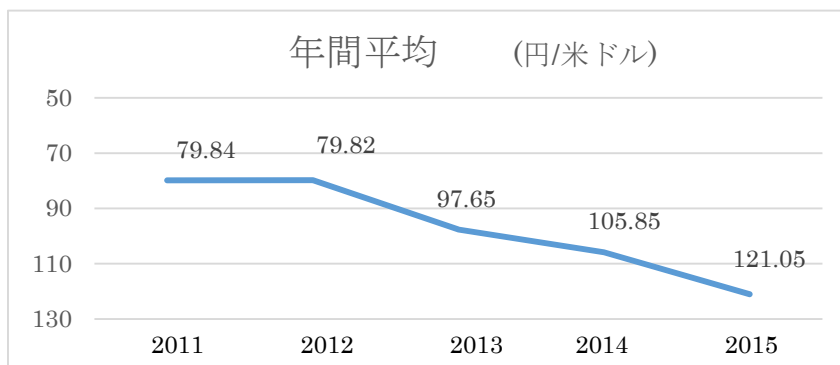
表6 県内貿易港の輸出額

単位：百万円

年次	2011		2012	2013	2014		増減率 (2011→2014)
総計	11,094,102		12,190,795	14,051,423	14,699,695		32.5%
(11、14年のみ) 上位5カ国	1	米国	2,318,506	/	米国	4,031,368	73.9%
	2	中国	1,860,203		中国	2,099,901	12.9%
	3	タイ	623,294		タイ	791,991	27.1%
	4	韓国	341,545		韓国	385,448	12.9%
	5	香港	248,516		インドネシア	307,527	60.6%

出典：(公財) あいち産業振興機構 — 平成26年における愛知県内貿易港の輸出入動向

図1 円相場の変化



出典：三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング株式会社 ― 外国為替相場 前年の年末・年間平均

### 【魅力 AICHI 戦略関連】

本県を来訪する外国人の増加と海外での知名度向上に向け、外国人観光客誘致事業や本県に魅力を感じられる取組を進める中、訪日外客数の動向を見ると、全国ではアジア地域を中心に急激に増加しており、特に中国からは、2011年から2015年の4年間で378.7%と大幅に増加した。また、本県への訪問者数も2011年から2015年の3年間で125.5%と全国平均（115.7%）を上回った。（表7）

中部国際空港の2012年冬ダイヤと2015年冬ダイヤを比べると、中国路線は就航都市数、便数ともに大幅に増加している。東南アジア方面も便数が増加しているが、欧米路線は減少している。（表8）

県内に在住する外国人が安心して生活を送るためには、慣れた言語で医療機関を受診できることが求められる中、あいち医療通訳システムの利用実績は増加しており、英語については特に増加している。（表9）

表7 訪日外客数【全国】

単位：人

年次	2011		2012	2013	2014		2015 (推計値)		増減率 (2011→2015)	
総数	6,218,752		8,358,105	10,363,904	13,413,467		19,737,400		136.2%	
上位7カ国(11、14年のみ)	1	韓国	1,658,073			台湾	2,829,821	中国	4,993,800	378.7%
	2	中国	1,043,246			韓国	2,755,313	韓国	4,002,100	141.4%
	3	台湾	993,974			中国	2,409,158	台湾	3,677,100	269.9%
	4	米国	565,887			香港	925,975	香港	1,524,300	317.8%
	5	香港	364,865			米国	891,668	米国	1,033,200	82.6%
	6	豪州	162,578			タイ	657,570	タイ	796,700	449.6%
	7	タイ	144,969			豪州	302,656	豪州	376,200	131.4%
県内 訪問率 (人)	8.8% (547,250)		9.4% (785,661)	8.5% (880,932)	9.2% (1,234,039)		—		125.5% (2011→2014)	

出典：日本政府観光局（JNTO） — 訪日外客数の動向

表8 中部国際空港の路線数(いずれも冬ダイヤ)

国名／年次	2012		2015	
	都市数	便数/週	都市数	便数/週
米国（本土）	1	5	1	4
EU	2	12	2	10
中国	10	79	22	139
台湾・香港	2	46	2	53
韓国	3	60	2	49
東南アジア	5	36	6	51
(その他含む)合計	26	273	38	339

出典：中部国際空港株式会社 — 国際線の就航路線と便数

表9 「あいち医療通訳システム」の利用実績

単位：件

利用形態／年度	2012	2013	2014	2015 (4月～2月)	増減率 (2012→2014)
英語	113	187	284	259	151.3%
中国語	95	157	194	265	104.2%
ポルトガル語	363	416	491	513	35.3%
スペイン語	158	189	271	285	71.5%
フィリピン語	28	31	33	70	17.9%
韓国・朝鮮語	1	1	1	0	0%
合計	758	981	1,274	1,392	68.1%

※件数は、各利用形態（通訳派遣、電話通訳及び文書翻訳）を合計したもの。

出典：愛知県県民生活部社会活動推進課多文化共生推進室資料

### 【アジアパートナーシップ戦略】

アジアの活力を取り込むパートナー関係の構築に向け、中国・広東省及び韓国・京畿道と相互協力、タイと経済連携の関係を結んだ。こうした中、アジアの諸国について、減速傾向にあるものの、相対的には経済成長が続いている。一方先進国は伸び悩み傾向にある中、米国については着実に成長が続いている。(表 10)

表10 各国の経済成長見込み

単位：％、億米ドル

年次 国名	2010	2011	2012	2013	2014		2015	2016	2017	2018	2019	2020
						GDP						
日本	4.71 (4.53)	▲0.45 (▲0.76)	1.74 (2.22)	1.59 (1.23)	▲0.10 (1.08)	46,024	0.59 (1.15)	1.00 (1.07)	0.45 (1.09)	0.66	0.91	0.72
米国	2.53 (2.39)	1.60 (1.81)	2.22 (2.17)	1.49 (2.12)	2.43 (2.94)	173,481	2.57 (3.36)	2.84 (3.41)	2.80 (3.33)	2.68	2.22	1.96
EU	2.08 (2.06)	1.80 (1.59)	▲0.40 (▲0.21)	0.25 (0.49)	1.46 (1.53)	185,271	1.89 (1.91)	1.95 (2.02)	1.97 (2.06)	1.89	1.88	1.86
中国	10.6 (10.45)	9.5 (9.24)	7.75 (7.83)	7.69 (8.23)	7.3 (8.51)	103,565	6.81 (8.54)	6.3 (8.54)	6 (8.5)	6.1	6.33	6.33
韓国	6.50 (6.32)	3.6 (3.63)	2.29 (2.69)	2.90 (3.63)	3.31 (3.95)	14,104	2.66 (3.95)	3.16 (3.95)	3.59 (3.97)	3.58	3.58	3.57
インドネシア	6.38 (6.20)	6.17 (6.46)	6.03 (6.04)	5.58 (6.40)	5.03 (6.54)	8,886	4.66 (6.64)	5.1 (6.74)	5.5 (6.85)	5.8	6	6
タイ	7.51 (7.78)	0.83 (0.05)	7.32 (5.57)	2.80 (5.99)	0.87 (4.5)	4,048	2.49 (4.6)	3.21 (4.8)	3.57 (5)	3.40	3.32	3.18
ベトナム	6.42 (6.78)	6.24 (5.89)	5.25 (5.11)	5.42 (5.88)	5.98 (6.42)	1,859	6.5 (6.76)	6.4 (7.2)	6 (7.5)	6	6	6
インド	10.26 (10.09)	6.64 (6.84)	5.08 (4.86)	6.90 (5.97)	7.29 (6.39)	20,512	7.26 (6.74)	7.46 (6.89)	7.54 (6.95)	7.65	7.70	7.74

※上段：2015年10月時点での実績及び見込み

下段：2012年10月時点での実績及び見込み(2017年まで)

出典：IMF — World Economic Outlook Database (2015年10月版、2012年10月版)